

SPiDRS(スパイダース)ディスカッションフレームワークは、会議やプロジェクトにおける問題解決を効率的に討議するための6つのステップから構成されています。各ステップを順番に進めることで、チーム全体が一貫した方向性を持ち、効果的に目標を達成することができます。以下に、各ステップの定義と例示を記載します。

Situation(現状分析)

定義: 現在の状況や背景を整理し、問題の全体像を把握します(職場での会議の場合のみ適用)。

例:「現在、プロジェクトチームの残業時間が増加しており、業務効率が低下しています。」

Purpose(議論の目的)

定義: 会議の目的を明確にし、全員が共有するゴールを設定します。

例:「この会議の目的は、残業時間を削減するための具体的な対策を決定することです。」

issue(問題と課題)

定義: 解決すべき問題や課題を特定し、議論の基礎を固めます。

例:「プロジェクトの遅延とそれに伴う残業増加が、社員の負担を増加させています。」

Discussion Point(今回議論すべき論点)

定義: 議論すべき具体的な論点を設定し、議論を集中させるポイントを明確にします。

例:「今日の会議では、プロジェクトのスケジュール見直しに関して論じていきましょう。」

Root Cause(根本原因)

定義: 問題の真因を探り、根本的な原因を解明します。

例:「スケジュールが過密であり、役割分担が不均衡な点が、残業増加の真因と考えられます。」

Solution(打ち手)

定義: 問題解決に向けた具体的な打ち手や行動計画を策定します。

例:「今からでも可能な範囲で、スケジュールと役割分担の見直しを行いましょう。そのために…」

例) 日本の平均賃金を向上するには何が必要だと思う？

1. Situation(現状分析)

日本の平均賃金は、他の先進国に比べて、著しく低く(例:欧米 600-800万円/年 日本 400-500万円/年) 様々な問題を引き起こしてしまう。

2. Purpose(議論の目的)

今回「日本の平均賃金を向上させるために、もっとも優先されるべき施策を1つ提案する」ことをゴールとする

3. Issue(問題と課題)

日本の平均賃金が長期にわたって停滞していることで、経済成長の鈍化、労働職の海外流出、国際競争力の低下など様々な問題が発生している。これらの問題は、賃金全体が底上げされて、平均賃金が上昇していくことで緩和されると考えられる。

4. Discussion Point(今回議論すべき論点)

「平均賃金の上昇」のために、もっとも優先される(有効な)手段を1つ~3つを生み出すことを検討する

5. Root Cause(根本原因)

そもそも、賃金向上を妨げている要因は何か? 「企業が内部留保を増やし、利益を十分に賃金に反映させていない」→Why?:一度賃金をあげると下げられない。バブル崩壊を経験した経営者...他

6. Solution(打ち手)

①「企業の内部留保を賃金に振り向けるための税制優遇措置」

②「賃金引き上げに連動した政府の補助金制度」

全体の9割が中小企業と考えたとき、また、その財務力を考えたとき、中小企業への優遇や補助を手厚くしなければ、賃金上昇は難しいと思われる。

Facilitation Notes

SPiDRS TM	Facilitation Notes	ファシリテーター	time
1. Situation (現状分析)			
2. Purpose (議論の目的)			
3. issue (問題と課題)			
4. Discussion Point (今回議論すべき論点)			
5. Root Cause (根本原因)			
6. Solution (打ち手)			